

1 アンケート実施概要

(1) 調査の目的

松山圏域に居住する住民の日常生活における行動範囲や圏域のイメージ、行政の取組に対するニーズなどを把握し、「第2期まつやま圏域未来共創ビジョン」策定の参考とする。

(2) 調査対象

松山圏域の市町に居住する20歳から79歳までの住民2,000人を対象とした。

なお、市町別の内訳は、松山市居住者500人、その他の市町居住者各300人とした。

(3) 調査方法

郵送により調査票の配布・回収を行った。また、調査票にQRコードを記載し、WEBからの回答も可能とした。

(4) 調査時期

令和2(2020)年7月28日(火)～8月12日(水)

(5) 回収率など

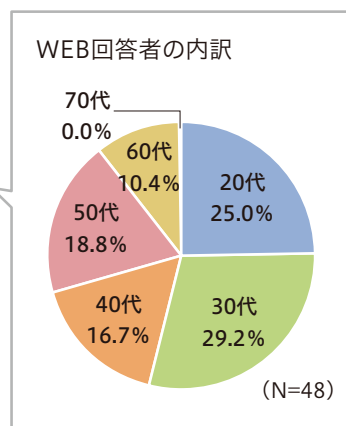
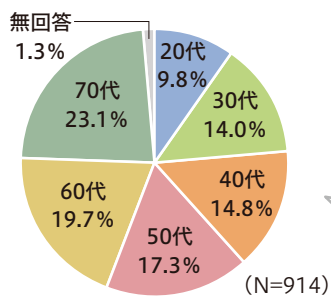
発送数	有効回収数	有効回収率
2,000票	914票(うち、WEB回答48件)	45.7%(WEB回答率5.3%)

(6) 回答者の年齢及び居住地

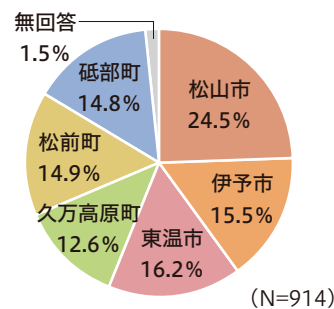
回答者の年齢は、70代が最も多く、4割以上が60歳以上の高齢者であった。居住地は、松山市が最も多く、東温市、伊予市、松前町、砥部町、久万高原町と続く。

なお、WEB回答者は20代・30代の回答が多かった。

■ 年齢



■ 居住地



2 アンケート結果(抜粋)

行動特性

コンサート・演劇鑑賞は、松山市に大きく依存している。

食品・日用品以外の買い物は、松前町が圏域他市町からも利用されている。

アウトドア・レジャーは、圏域外の愛媛県内に依存している。

日常生活における活動について、その活動のために比較的よく行く地域を聞いたところ、コンサート・演劇鑑賞は、すべての市町が9割前後の高い割合で松山市に依存している。

また、買い物について、食品・日用品は、伊予市が松前町(4割)、東温市が砥部町(3割近く)、砥部町が久万高原町(3割)からも利用されている。食品・日用品以外は、松前町が、伊予市から8割近く、松山市(3割)、東温市(2割)、砥部町(4割)からも利用されている。

一方、アウトドア・レジャーは、久万高原町が砥部町(3割)、松山市(2割)から利用されているが、特に伊予市、松前町、砥部町ではその他の愛媛県内に依存している。

【各地域で最も多く利用されている活動の居住地別集計】

各地域で、最も多くの人が利用している活動が、どこからどのくらいの人を集めているかを示す。

利用地域	最も多く 挙げられた活動	居住地ごとの依存度					
		松山市	伊予市	東温市	久万 高原町	松前町	砥部町
松山市	コンサート・ 演劇鑑賞	95.4 % (n=152)	90.1 % (n=91)	87.1 % (n=93)	86.1 % (n=72)	92.4 % (n=92)	87.0 % (n=92)
伊予市	買い物 (食品・日用品)	6.7 % (n=224)	98.5 % (n=136)	4.9 % (n=144)	4.5 % (n=110)	44.4 % (n=133)	8.1 % (n=135)
東温市	買い物 (食品・日用品)	15.2 % (n=224)	1.5 % (n=136)	97.2 % (n=144)	15.5 % (n=110)	3.0 % (n=133)	30.4 % (n=135)
久万高原町	アウトドア・ レジャー	19.4 % (n=155)	15.7 % (n=89)	14.4 % (n=97)	53.0 % (n=66)	20.0 % (n=90)	28.6 % (n=91)
松前町	買い物 (食品・日用品以外)	31.5 % (n=219)	77.4 % (n=137)	21.4 % (n=145)	20.0 % (n=110)	87.9 % (n=132)	39.1 % (n=133)
砥部町	買い物 (食品・日用品)	4.5 % (n=224)	6.6 % (n=136)	4.2 % (n=144)	31.8 % (n=110)	5.3 % (n=133)	94.8 % (n=135)
その他の 愛媛県内	アウトドア・ レジャー	36.1 % (n=155)	43.8 % (n=89)	33.0 % (n=97)	27.3 % (n=66)	46.7 % (n=90)	37.4 % (n=91)
愛媛県外	アウトドア・ レジャー	25.2 % (n=155)	21.3 % (n=89)	25.8 % (n=97)	21.2 % (n=66)	34.4 % (n=90)	24.2 % (n=91)

※日常生活における活動について、その活動のために比較的よく行く地域を3つまで回答

※それぞれの地域において、最も多く挙げられた活動について、居住地別に整理

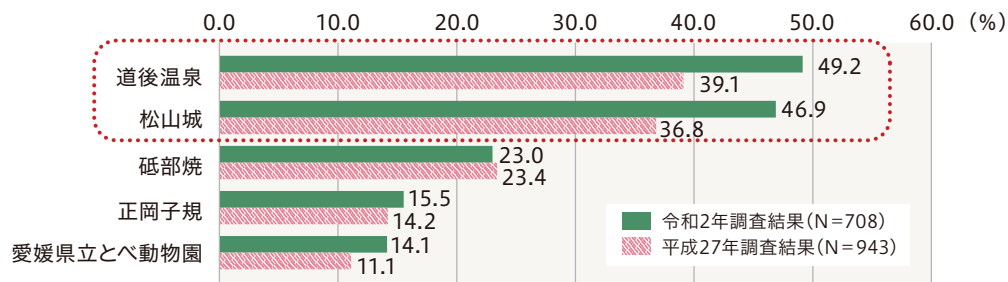
※太字は当該居住地で1番目に、 は当該居住地で3番目までに多いもの(は自市町内)

※表中のnの値は、無回答を除いた回答数を示している。

松山圏域の自慢できる特徴

特に道後温泉、松山城は、第1期のアンケートから約10ポイント伸びており、圏域として誇らしいものの象徴として定着している。

【自慢できる特徴】



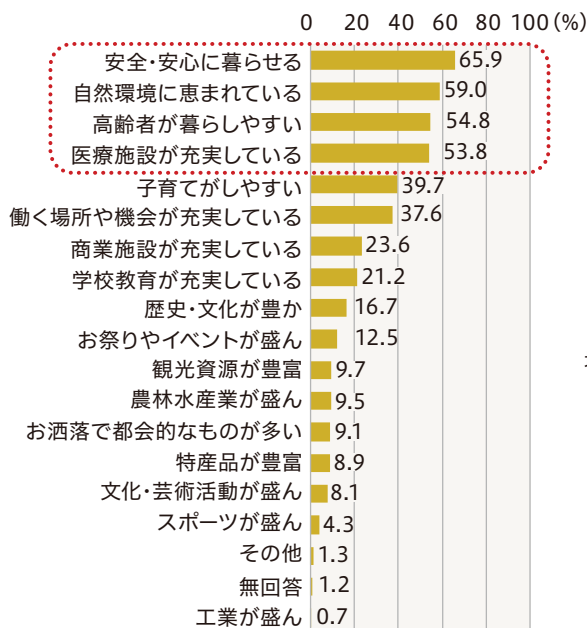
※松山圏域で、圏域外に自慢できるような特徴(名勝旧跡、施設、イベント・祭り、名物・特産品、自然・地勢・風土、偉人・有名人など)で、思いつくものを最大5つまで自由記述
 ※類似項目をまとめて、上位5位までをグラフ化している。

松山圏域に望む将来の姿とふさわしい将来のイメージ

松山圏域の将来の姿では、安全・安心に暮らせる、自然環境に恵まれている、高齢者が暮らしやすい、医療施設が充実していることが望まれている。

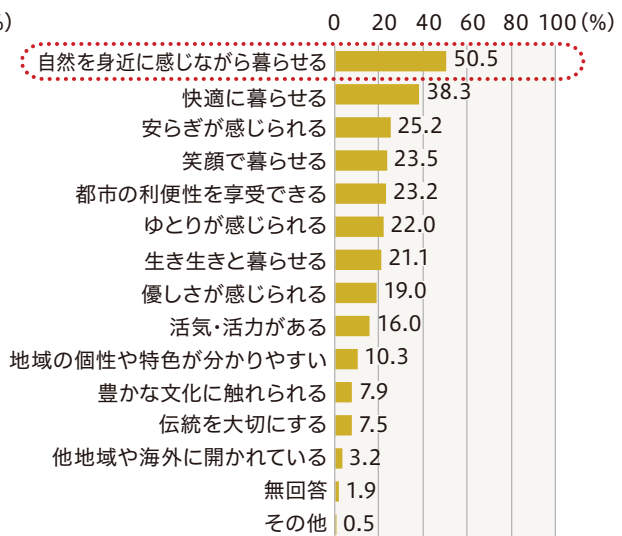
松山圏域の将来のイメージは、自然を身近に感じながら暮らせることがふさわしいと思われる。

【望む姿】



(N=914)

【イメージ】

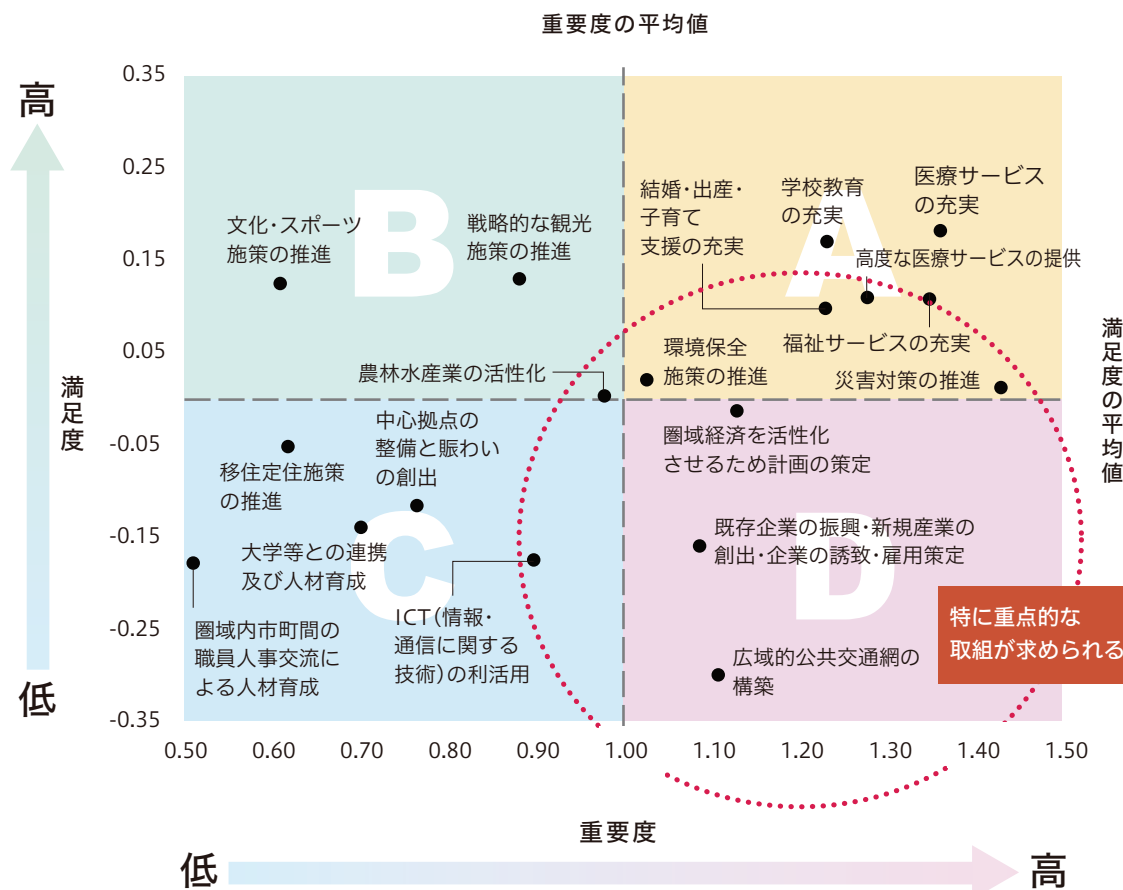


(N=914)

圏域内での取組の評価

医療・福祉サービス、教育・子育て環境、環境施策、災害対策は、重要度が高く一定の満足度がある。
 圏域経済成長の計画策定、産業振興、広域交通網は、重要度は高いが満足度が低い。

【満足度×重要度】



※満足度・重要度、それぞれの平均値をもとにA～Dの4つの領域に区分

満足度・重要度の平均値 = 各取組の評価点(加重平均) ÷ 取組数

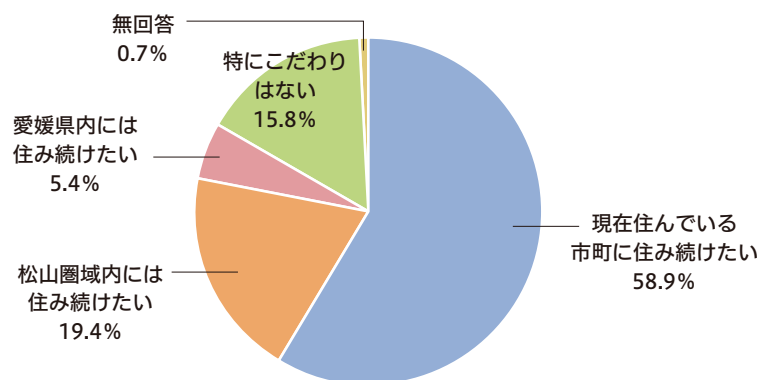
*各取組の評価点 = 各選択肢の点数(加点表参照) × 各選択肢の回答数 ÷ 全回答数

加点表

各選択肢の内容	非常に満足 非常に重要	やや満足 やや重要	どちらとも いえない	あまり満足 していない あまり重要 でない	全く満足 していない 全く重要 でない
加点	+2	+1	0	-1	-2

圏域内での定住意向

8割近くの方が松山圏域に住み続けたいとの意向をもっている。



III

3 まとめ

松山圏域において日常的な活動は、回答者が居住している市町内を中心に行われる傾向にある。一方、コンサートなどの大規模イベントへの参加や医療をはじめとした高度な生活サービスは、拠点性を持つ松山市で行われており、松山圏域内で住み続けたいと思える生活ができるところが松山圏域全体の魅力であり、それは圏域の3市3町がお互いのリソースで補完しあう中で保たれている。

また、松山圏域の将来像では、安全・安心で、子育て・福祉・医療の充実した、自然豊かな暮らしを望む声が多く、現在も高い水準にある圏域内での定住意向を維持・向上していくためには、産業振興をはじめ、ICTの利活用や災害対策、防災体制の充実、更なる子育て環境の充実などを重点的に取り組むことが求められている。